



＜来週の資金需給予想とイベント予定＞

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
9/16 (月)				敬老の日			
9/17 (火)	+ 200	+ 7,400	+ 7,600	国庫短期証券発行償還 (3M) 国債発行償還 (個人)	CP等買入 ▲ 100 国債補完供給 + 14,500		米：FOMC (1日目) 米：小売売上高 (8月) 米：鉱工業生産指数 (8月)
9/18 (水)	トン	▲ 7,000	▲ 7,000		共通担保 ▲ 8,000		米：FOMC (2日目) 米：住宅着工件数 (8月) 欧：ユーロ圏CPI (8月)
9/19 (木)	トン	+ 7,000	+ 7,000				日：日銀金融政策決定会合 (1日目)
9/20 (金)	トン	+ 48,000	+ 48,000	国庫短期証券発行償還 (1Y) 国債大量償還 (5年・10年・20年) 利払い 流動性供給			日：日銀金融政策決定会合 (2日目) 日：全国CPI (8月)

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆1,300億円増加の543兆7,600億円から始まった。その後、国債買入オペや国債発行、源泉税揚げ等の要因により増減し、13日は541兆8,400億円（速報）まで減少し越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.227%から始まった。その後もビッドサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばい圏で推移した。

ターム物は1W～3W物0.23%～0.30%のレンジ、1M～3M物0.30%～0.35%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、日本では9月19・20日に日銀金融政策決定会合が開催、20日に全国CPI (8月) の公表。海外では17・18日に米FOMCの開催、18日に米住宅着工件数 (8月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.22 ~ 0.228
1M	0.30 ~ 0.45
2M	0.30 ~ 0.45
3M	0.30 ~ 0.45
6M	0.45 ~ 0.65

＜レポ＞

足許GC取引は週を通して+0.23%～+0.26%のレンジで出合いが見られた。短国の発行があった週末も水準に変化は見られなかった。

SC取引は2年450～464回債、5年149～172回債、10年350～375回債、20年180～189回債、30年65～83回債、40年13～17回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.12 ~ 0.20
CP 3M	0.30 ~ 0.50

＜CP＞

今週の入札発行総額は約1兆5,000億円で、週間償還額の1兆5,400億円を下回った。発行残高は先週末時点の24兆9,152億円から、9月12日時点で24兆317億円に減少した。発行市場は鉄鋼、石油製品、卸売業、その他金融業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは銘柄や期間等によりばらつきが見られ、1M物から3M物で、0.25%から0.30%台前半での出合いとなった。先週に引き続き、1M物の内、発行量の少ない銘柄については、政策金利の0.25%に限りなく近い値で推移している。

来週の償還額は、約9,200億円となっている。発行市場は、営業日数が少ないものの5・10日絡みの発行から相応の発行が見込まれる。発行レートは、期内物では0.25%近辺での出合い、3M超の案件については0.30%台前半～0.30%台後半での出合いが散見されるであろう。

＜TDB＞

9日の6M (1255回債) の入札は、最高落札利回り0.0907% (前回債0.1109%)、平均落札利回り0.0867% (前回債0.0948%) となった。13日の3M (1256回債) の入札は、最高落札利回り0.0669% (前回債0.0822%)、平均落札利回り0.0567% (前回債0.0778%) となった。来週の入札は、18日に1Y、19日に3Mが予定されている。